

有機農業技術のつぼ

作物名	トマト
対応技術の項目	病虫害防除技術
	物理的防除法
	粘着板利用による害虫密度の低減

《情報収集先の経営概要等》
 北斗市 清水 千万幸 経験年数31年（うち有機年数12年）
 経営耕地面積 13.0ha

トマト	0.18ha	（うち有機 0.18ha）
きゅうり	0.03ha	（うち有機 0.03ha）
枝豆・ほうれんそう ほか	4.29ha	（うち有機 4.29ha）
水稲	8.50ha	

労働力 家族2人、パート（水稲のみ）
 有機JAS認証の取得状況 平成20年取得

問題点

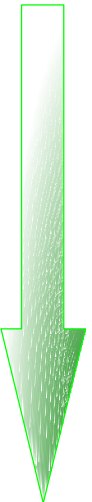
害虫による被害が多発していた



- アブラムシ類、アザミウマ類が多発していた。
農薬による防除ができないことから、被害を防止できなかった。

対応

粘着板（ホリバー）を導入した つぼ



- 次により粘着板（ホリバー）を設置した。

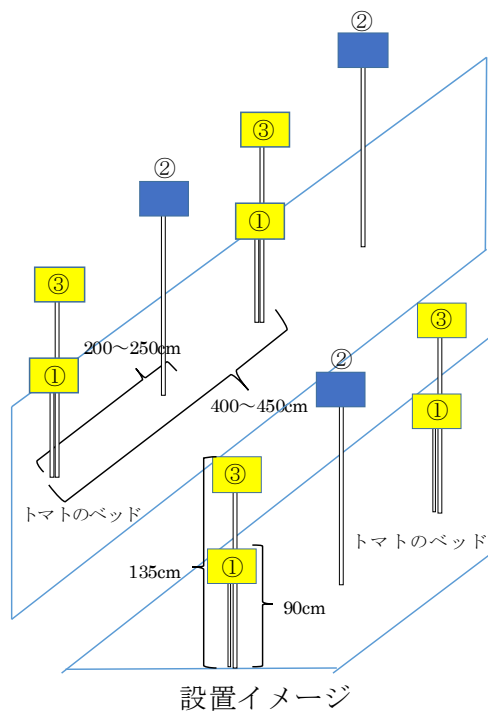
【定植2週間後】

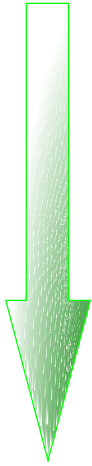
- ① 半裁した黄色粘着板を、900mm ポールの上端に挟み込み、4～4.5m 間隔でトマトのベッド中央に設置。
- ② 半裁した青色粘着板を、1350mm ポールの上端に挟み込み、①のポール 間に設置。

【トマト4～5段目開花時（草丈150cm程度）】

- ③ 半裁した黄色粘着板を、1350mm ポールの上端に挟み込み、①のポール の直上に設置。

※ 900mm及び1350mmポールは、ダンポールF2700mmを、それぞれ3等分（900mm）、2等分（1350mm）したものを使用。





【ハウス(100坪) 1棟当たりの粘着板必要枚数】

- ・ 黄色粘着板 3列 × 10カ所 × 1/2枚 × 2 (①及び③) = 30枚
- ・ 青色粘着板 3列 × 9カ所 × 1/2枚 × 1 (②) = 13.5枚

※ 栽培期間中に粘着板の交換は行わない。



ハウス内の設置状況



ポール上端に切れ込み
(ナタで7~8cm)を入れ
粘着板を挟み込む

※ **対応技術活用上の注意点**

- ・ 黄色の粘着板（ホリバー）はアブラムシ類、青色の粘着板（ホリバー）はアザミウマ類に対する持続的な効果を期待して設置している。
- ・ 黄色上段（③）の設置時期を逸さないよう注意が必要である。

成 果

製品収量が向上した

□ 製品収量の向上 約3割

※ 特に、アザミウマ類による被害果が約3割軽減された。